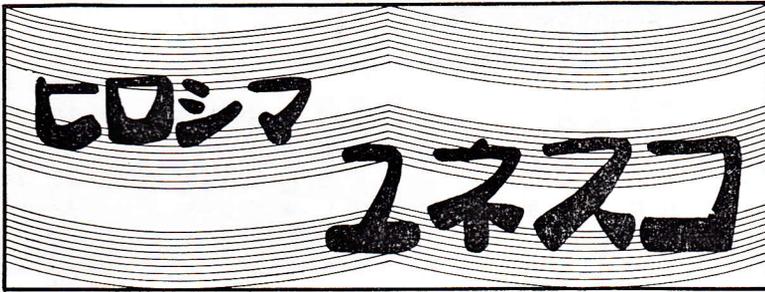


ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう
すべての人間の尊厳を重んじよう
教育・科学・文化の発展に努めよう
民族間の疑惑と不信を除こう
世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう



ユネスコ運動に活力を

協会創立五周年に当たって

広島ユネスコ協会会長 永井滋郎



本年は、われわれの協会創設

五周年に当たります。すでに六月十五日の総会決議に基づいて五周年記念事業の計画が、委員の方がたにより、着々と進められています。この事業の基本的なねらいは、本年度の日本ユネスコ運動全国大会のテーマ「今こそ地球市民の連帯を！」——明日に生きる子どもたちのために——の趣旨にも沿い、若い世代へ大いに働きかけていくことにあります。とくに、二十一世紀地球社会の担い手である高校生に、ユネスコ活動への関心を高めていく方策が、いろいろと検討されているのであります。いかなる運動も、後継者を育てていかなければ、その永続性をもち得ません。幸いに、わが協会は、有力な青年部をもっており、その活躍は全国的にも高い評価を受けています。この若い人々の層をさらに広く厚くしていくことが、協会の重要な責務だと考えられます。

この意味において、私は、十一月月中旬に予定されている五周年記念事業に大きな期待をよせるとともに、会長といたしましても、協会全会員のご協力をお願いする次第であります。

「創業」よりも「守成」は困難であるといわれます。創業に当たっての熱意も、年とともに薄れていく場合が少なくありません。また、創業に貢献した人も、年を重ねるにしたがって往時のようには活動できない環境におかれていくものであります。この時、必要とされることからは、つねに心のせんまいをねじかえして、初志を貫ぬいていく心構えとともに、若き後継

者を獲得していく努力が必要だといえましょう。

協会が存在し、協会が維持されることよって県ユ連、日ユ協連、アジア連盟、そして世界連盟が存続しうるのであります。われわれ一人一人は弱い存在であるかも知れませんが、このように組織をとおして輪を広げていくことにより人類の福祉の向上と世界平和の表現のための大きな力になりうるのであります。

協会創立五周年に当たって、広島ユネスコ協会の会員であるといふことの意義を、もう一度かみしめていただきたく思うのであります。協会は、誕生五年にして大きな転期に立っております。この協会にいつその活力を与えうるかいは、一にかかって会員皆様がたの双肩にあるといえましょう。

広島ユネスコ協会 昭和53年度役員

Table with 4 columns: Position (e.g., 名譽会長, 顧問, 会長, 副会長, 常任理事, 監事, 事務局), Name, and another Name. Lists names like 荒木武蔵, 内海巖, 永井滋郎, etc.

# 「原爆写真記録展」開催に大きな意義

副 会 長 小 倉 肇

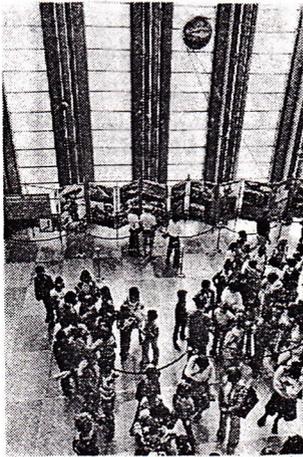
国際連合は一九四五年六月に創設されたのだが、一九七八年五月に至って初めて国連軍縮特別総会が開かれたというのも考えて見れば三十三年間軍縮の道はどうなっていたのだろうかと思議に思われる。

一九四六年十二月十四日の第一回総会本会議で、「軍縮大憲章」と呼ばれる決議が採択された。しかし、東西対立が激しくなると、具体的な成果が上がらなかつた。一九五二年に「軍縮委員会」をつくるのだが、米ソの

## 国連軍縮特別総会に出席して

一九七〇年、中国がやっと国連に加盟が認められた年に、ソ連は急に、非同盟諸国が唱えていた「世界軍縮会議」の開催を提案した。今度は中国が、先手を取られたとみて、この世界軍縮会議に反対した。

戦略核兵器開発の競争はますます激化した。これに我慢ができなくなつたのが非同盟諸国である。米ソの同



国連本部ロビーで開かれた  
広島・長崎の原爆写真展

盟諸国は皆それぞれの理由で、敢えて反対を唱えようとしなが、非同盟の国にとっては迷惑千万である。

非同盟諸国は、中国が国連に認められていないので国連の軍縮特別総会は無理とみて、別に「世界軍縮会議」を提唱した。これが一九六〇年代である。

一九七〇年、中国がやっと国連に加盟が認められた年に、ソ連は急に、非同盟諸国が唱えていた「世界軍縮会議」の開催を提案した。今度は中国が、先手を取られたとみて、この世界軍縮会議に反対した。

そして、遂に一九七八年になつてやっと初めての国連軍縮特別総会の開催となる。これは、国連の過半数を占める非同盟八十六カ国の努力が実つたもので

ある。この特別総会の成果についてはいろいろ評価できるが、核兵器保有国が「安全に対する各国の権利」を主張しとおし、また核不拡散だけを強く主張したことに對しては、肝心の核軍縮の成果は拳がたつたと見られない。

一方、米ソ主導の従来のジュネーブ軍縮委員会が、国連の枠の中で、議長輪番制で、中仏を含む四十カ国の構成メンバーの實質的な交渉機関となつた。そのうへ、国連の総会第一委員会

が軍縮専門の委員会に改組された。この意味では中国、フランス兩國を含めての枠組の変化は一步前進と見られる。

さて、この特別総会と日本との関係を見ると、政府側では初めて園田外務大臣の代表演説の中で、従来の唯一の被爆国である点から、進んで広島・長崎の実相を訴えるところまでふれたことは初めてのことであり、特筆されるべきであろう。そして日本国の八月六日を「国連軍縮デー」にとの提案は、最後まで多くの国によって支持されたが遂に十月二十四日から一週間を「国連軍縮週間」という代案を産んだ。

一方、日本の国民側では、約五百人からなる大代表団を国連本部に送り、二十万人の国民の核兵器廃絶の署名簿を届けたことは、国連加盟のいかなる国よりも、切実な国民の願いを国際舞台上に投げつけた。

最後に、広島は、この特別総会の好機を選んで、長崎と共に国連本部ビル内で、「原爆写真記録展」を開催した。写真が残酷すぎるという理由で五点削減の問題などもあったが、国民世論の強い支援で国連側も受け入れ、初めての生々しい写真が、加盟国代表に見られたことは大きな意義があつた。

## 人間の心と心のふれ合いが平和の原点に

広報担当常任理事 高橋昭博

私は、五月二十三日から、「国連に核兵器完全禁止を要請する日本国民代表団」約五百名の中の、日本被団協の代表の一員として、国連軍縮特別総会への出席とアメリカ各地への核兵器廃絶を求める平和行脚を行い六月八日、十七日間の旅を終えて帰国しました。

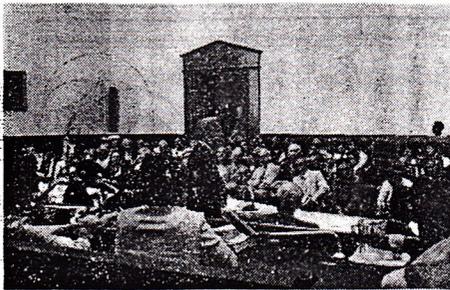
アメリカへ初めて足を踏み入れる私の気持ちは大変複雑でした。

た。日本がおこした侵略戦争の結果、アメリカの原爆投下によって私は被爆し、大火傷で片輪になつたのですから、正直言つて私は日本の軍閥とアメリカの為政者を憎んできました。私のこつた気持ちは永久に消え去ることはないでしょう。

しかし、今回のアメリカ訪問に当たって、私は、アメリカを単なる憎しみの対象としてでは

なく、私の心の中にある憎しみや悲しみを、たとえ苦しくとも乗り越えて行かなければ、国連の各国代表部へ訴え、アメリカの市民と率直に話し合うことはできないと思ひ、そう気持ちを整理して渡米しました。

自国の立場の弁明に終始する米ソ二大核保有国の、核兵器廃絶へのきびしく厚い壁、そして私たち代表団に会おうともしな



日米ワシントン市民対話集  
会で演説するラロック元提  
督（中央で立っている人）

い中国代表部——こうした大國  
エゴに私たち被爆者はむなしさ  
を感じましたが、今回の軍縮特  
別総会を開かせた非同盟諸國の  
國連代表部はともに私たち代表  
團の核兵器完全禁止の強い要請  
を誠実に受け止め、支持・協力  
を約束してくれました。

私はまた、ワシントンで、ネ  
バダやミクロネシアの核実験に  
よる被害状況を調査しているテ  
ィム・カーター下院議員と会見  
し、「アメリカが最初に原爆を  
つくって使用したのだから、原  
爆の製造や実験をやめるのも、  
まず、アメリカが率先してほし  
い」と、私の忌憚のない気持ち  
を訴え、同議員も深く共鳴して

くれました。

日米市民対話集会では、「日  
本の非核三原則を世界化しなけ  
ればならない」というラロック  
元提督の演説を聞きましたが、  
同氏は、一方では、「日米安保  
条約で日本政府が核のカサを欲  
していることと、日本の核兵器  
廃絶運動とのあいだには大きな  
矛盾がある。その矛盾はあなた  
がた日本国民が解決しなければ  
ならないことだ」ときびしい指



### 「被爆者との集い」を来年は青年の手で

青年部長 北野明

摘をされました。

私は、最後の訪問地ホノルル  
市にあるパールハーバーを訪れ  
ました。代表団が突然理由もつ  
げずに見学を中止したことへの  
割り切れなさを残しながら、私  
たち広島県被爆団五人だけで菊  
の花束を持ち、アリゾナ号の残  
骸の上に建てられた白亜のアリ  
ゾナ記念館で、日本の不意打ち  
によって海のもくずと消えた犠  
牲者に深い黙禱を捧げました。

それまでは、私たち被爆者の英  
文の訴えや被爆写真集をかたく  
なに拒んでいたアメリカの観光  
客も、私たちの祈りと涙を見て  
握手を求め、肩をたたき合っ  
てくれました。「ノーモア・ヒロ  
シマ・ナガサキ」は、「ノーモ  
ア・パールハーバー」につうず  
ることです。人と人との心のふ  
れ合いこそが、平和の原点でな  
ければならないことを痛感しま  
した。

八月六日の核禁世界大会に付  
随する行事として、八月五日に  
西隣保会館において開催された

それがいかに残酷なものである  
かということをお互いに再認識  
することであった。当初、百人  
規模の会を予定していたが実際

島の青年が主催してこの種の集  
会を行なうのはどうかという意  
見がわれわれ青年の中から出  
てきた。

この大会に参加して感じたこ  
とは、広島県の参加が少な  
かったことで、これは大変残念  
であった。平和教育も全国的に  
かなり高い水準にあり、被爆の  
原点である広島に住んでいな  
がら、この種の大会に参加しよ  
うとしない若者を反核運動の中  
にくみ込んでいくためにはどのよ  
うにしていけばいいのか、われ  
われユネスコ青年部も考えな  
ければならない。それにわれわれ  
自身のユネスコ青年部の参加も  
少なかつたこともあわせて、こ  
れからの活動をどうすればよい  
かを考え直す必要があるように  
思う。しかし、広島県の青年が中  
心になって「被爆者と集うコー  
ヒーショップ」のような集会を  
来年は開こうという動きが出て  
きたことは、今年の世界大会の  
大きな収穫であったと思う。そ  
ういう動きを私は大切にしてい  
てゆきたいと思っている。

「被爆者と集うコーヒーショッ  
プ」にわれわれユネスコ青年部  
も参加した。日本被爆協と広島  
県被爆協の主催であったが、わ  
れわれ「広ユ青」が実質的な会  
の運営をまかされた。運営にあ  
たって、主催者側の希望は「従  
来のこの種の大会にありがちな  
かたぐるしさをなくして、リラ  
ックとした話し合いにして欲し  
い」とのことであった。

話し合いの内容は、①被爆の  
体験談②その後の反核運動の発  
展③被爆者のおかれている今日  
の状況——などであった。この  
集いを行なう中で、今年是被団  
協の主催であったが、来年は広

この集会の目的は、被爆者の  
原体験を体験のない人達に伝え

ただけに、今年は従来の形を打  
破して新しい発想の大会にしよ  
うと市民五団体が積極的に働き  
かけたことは大変意義深く、ま  
た新鮮であり、われわれは高く  
評価したい。全国からおおよそ一  
万人の人々が集まり、原爆詩や  
フォークソングを歌い、詩の朗  
読などもあって、大会は大いに  
盛り上がり、感動的であった。



一瞬にして、世の中が移りかわり、ヒロシマの焼け野原にも、平和と文化が同時にやって来た。

永いあいだ、飢えていた印刷文化も珍しく、文化行事なら何んでもよい。まさに、文化ドン、ドンのそのころは、ユネスコとゼネストが間違われるような、滑けいなこともあった。当時、市内の外科医・長谷信夫氏（故人）が熱心なユネスコ運動家で、本日休診先生として自宅



「青年ユネスコ・西日本ブロック研修会」開催

第十二回「日本青年ユネスコ西日本ブロック研修会広島大会」が、中四国・九州各地から十七団体、約八十人の青年ユネスキャンを集め、広島青少年文化センターで、四月二十九日から三日間開催された。広島ユネスコ青年部が主管し

を解放し、カストリ酒を呑みながら、気がるに出入りのできる集会所であった。ユネスコ提唱者の主なメンバーとして、広島大学の故人、長田先生をはじめ広島中央放送局（現在の中国本部）や県・市の職員で平和建設

いつまでも

新川 貞之

のため日本文化平和協会を結成する。長谷先生の出費で小冊子一号を昭和二十三年春発刊したのが、広島ユネスコ運動のはじまりであった。

未文化の時代、いろいろな文化講演会や、音楽会などの行事

に、ユネスコが名儀主催で参加する。その世話役はとも忙しい。そこで事務局に若い美人の佐々木久子女史（雑誌酒編集長）を採用、資金の寄付集めと普及に活躍する。

輪が広げられてゆく。しかし、熱しやすく冷め易く、一般に心ががすく、真に熱意あるわずかな会員の運動であったことは否めない。私も、三十余年間社会教育関係の公務にたずさわり幸い少しばかり運動に参加する機会もあった。とかく、団体活動は、ときに人が変わればその盛衰がはげしく、ごたぶんにもれず、一時は、広島ユネスコも後退していたが、数年前か内海先生や永井会長らの関係者の尽力により再出発した意義は大きい。ここに前進のよろこびをともにかみしめ、それをいつまでも大切にしたいものである。

（文化担当常任理事）

たこの大会のメインテーマは「新たなユネスコ活動をめざして」。これは当青年部の平和問題への取り組みの中から掲げられたもので、いま一度ユネスコ平和の理念や意義を整理し、サロンのユネスコ運動を返上して、その運動が力強い平和への訴えとなるように変革してゆこうという趣旨から設定された。

初日は、荒木名誉会長をはじめ多数の協会関係者列席のもとに開会式が行なわれた後、内海顧問が「地球市民社会とこれか

らのユネスコ活動」と題して記念講演をされた。

第四回「世界の児童画展」開催

当協会青年部は、「世界の児童画展」を、八月二日から一カ月間、広島市中央図書館で開催した。

子どもたちに絵をつうじて外国の文化や生活に触れてもらおうと、毎年夏休み期間中に行われてきたこの展示会も、四回目を数え、すっかり子どもたちに

親しまれ、定着するようになった。「老年現象研究日米シンポジウム」に参加  
八月三十日、広島医師会館で開かれた老年現象研究日米シンポジウムに、当協会からも永井会長のほか四名が出席した。

「世界における児童画コンクール」開催

わが国の重要な社会問題となっている老人福祉は、ユネスコにとっても傾注すべき課題である。さる九月三日「世界における児童画写生大会」が、祇園町子ども会育成連絡協議会と当協会青年部の主催で、祇園公民館で行なわれた。

当日は雨天にもかかわらず、多数の子どもたちの参加があり海外に送られる自分たちの絵に夢を託して、絵筆をふるった。

なお、入選作は、十一月三日から一カ月間、海外の児童画とともに、祇園公民館ホールに展示される予定である。

昭和五十三年度の会費三千円（維持会員は一万円）をお払い込みください。

振込先 広島銀行本店

普通預金、口座番号 四六六〇

受取人 広島ユネスコ協会

会長 永井滋郎

（もよりのどの銀行でも取り扱います）